

## 2018 スーパーモト技術規則の解釈と運用について

2018 MFJ スーパーモト技術規則における下記項目については、参加する選手の経費軽減と安全性確保の観点から下記の通り規則の解釈と運用を競技会において行います。

2018MFJ 国内競技規則 スーパーモト技術規則 **4** その他技術仕様 (P.371)

4-1 4ストロークエンジンを使用する車両では、クローズドブリーザーシステムになっており、オイルブリーザーラインが確実にエアクリーナーボックス(コネクティングチューブ含む)に連結されているか、最低0.3リットル以上の金属製のオイルキャッチタンクが確実な固定方法で取り付けられていなければならない。

- ① ベース車両がスーパーモト、モトクロス、エンデューロ用等の4ストロークMFJ公認車両で、エアクリーナーボックスおよびコネクティングチューブが公認車両のまま使用された場合は、その時点でクローズドブリーザーシステムが成立しており、オイルキャッチタンクの取り付け義務ありません(キャッチタンクは取り付けなくてOKです)。ただし、エアクリーナーボックスの下部に排水穴(水またはオイル抜き等の穴およびドレンパイプ)が開いている場合は、オイルが漏れないように穴およびパイプを塞いでください。

この状態で、エアクリーナーの吸気口を拡大する場合は、公認車両のエアクリーナーのオリジナルの吸気口より上側に穴を拡大してください。

エアクリーナー(コネクティングチューブを含む)を改造する、オイルブリーザーホースを変更する、エアクリーナーの吸気口をオリジナルの位置より下側に拡大する、公認車両以外の車両を使用する場合および2ストロークのミッションブリーザーホースが大気解放になっている場合等は規定の金属製オイルキャッチタンクを取り付けてください。

4-2 一つまたは幾つかの漏れ防止の施された最低容量150cc以上のキャッチタンクが、ラジエターオーバーフローパイプおよび燃料タンクブリーザーシステム用に取り付けられていなければならない(キャブレターを使用した車両はキャブレターオーバーフローシステム含む)。  
このキャッチタンク類は各走行のスタート前に空にされていなければならない。

(中略)

4-4 燃料タンクブリーザーパイプ  
ノンリターンバルブを燃料タンクブリーザーパイプに取り付けなくてはならない。

- ② ラジエターオーバーフローパイプと燃料タンクブリーザーシステム用パイプを1個のキャッチタンクで供用することも可能です。ラジエターオーバーフロー用と燃料タンクブリーザーシステム用のキャッチタンクをそれぞれ独立して(2個)使用することも可能です。

※ 併用する or それぞれ独立して使用する、いずれの場合もタンク1個につき最低容量150cc以上が必要です。

- ③ ベース車両がスーパーモト、モトクロス、エンデューロ等のMFJ公認車両で、燃料タンクおよびフィルターキャップが公認車両から改造なしで使用された場合で、フィルターキャップブリーザーホースの先端にノンリターンバルブ(アフターパーツを含む)を取り付けた場合は、燃料タンクブリーザーホース用のキャッチタンクの取り付けは免除されます(取り付けなくてOKです)。

フィルターキャップを改造した、または変更(アフターマーケット品含む)をした場合はキャッチタンクを取り付け、フィルターキャップブリーザーホースの先端をキャッチタンクに挿入してください。

以上